

令和3年 11月 19日

## 議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 森田 洋一 様

議会報告会 4班(都市建設委員会)

班長 戸辺 滋

大野 富生

大塚 洋一

笠原 久恵

中村 彰男

楠山 栄子

乾 紳一郎

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

### 記

- 1 日時 令和3年11月14日(日) 午前9時30分～午前11時30分
- 2 場所 向小金福祉会館 舞台付大広間
- 3 欠席議員 なし
- 4 来場者数 市民来場者6人、議員・職員2人、計8人
- 5 報告内容
  - (1)新型コロナウイルス感染症対策など市の取り組みについて
  - (2)東部地域の諸課題

## 6 意見交換内容

問) コロナワクチン接種について、3回目の接種が始まるが、東洋学園は再び接種会場として使用できるのか。また、1回目の接種が他自治体に比べ遅れたが、3回目の接種は遅れないよう、市議会としてもチェックして欲しい。PCR 検査について、政府は無料で対応する方針を示しているが、市はどのように対応するのか。また、流山市医師会との提携については、どのようになっているのか。

答) 3回目接種の集団接種会場について、現段階では市当局から報告は無いが、開設すべきと考えている。予約についても、スムーズに予約を取れる体制を取れるようにしっかりと臨んでいきたい。PCR 検査や医療体制について、しっかりと構築していくことが大事だと考えている。

答) 3回目の接種について、現段階で国の方針が明確になっていないが、市でも準備は進めていると聞いている。クーポン券を配布して接種を受けることになるが、準備は始まっている。1、2回目の接種は集中したので、分散することが出来るのか、会場を確保することが出来るかが課題と聞いている。1、2回目と違って、今回は医療機関でワクチン接種をしているところがあるので、病院や診療所でワクチンを打てる環境としては前回とは大きく違っている。そこで足りない部分をどうするのかを議論していると聞いている。無料の PCR 検査をどう進めるのか、考え方は示されていないので、今は何とも言えない。医師会との提携では、第 5 波の中で、自宅療養、検査結果待ちの人が自宅に待機しているが、その人達の医療的な対応が欠けて、在宅死される方も出る等、大きな問題となった。市では医師会と協議し、訪問医療を対応する医師を拡充しながら、在宅患者のケアを進めていくことを第 5 波の中で考えた。第 6 波でもその取り組みでやっていくと担当者は言っている。そこについては期待したい。何としても政治の力で、検査を徹底し早期の治療を行う。そういう声を議会も上げて、皆さんも声を上げて頂きたい。

問) 名都借跨線橋が完成することは多くの市民が待っているが、便利になった結果、トラフィック(交通)がどうなっていくのか。便利な反面、近隣住民に不都合が起きるのではないかと懸念する。具体的には、6号線から跨線橋を渡って旧たけのこルームへ、そこから多くの車両が香取神社側方面へ流れ、香取神社付近の交通渋滞が更に進む。そうすると、

抜け道を探す車両が増えることが懸念される。そこで、トラフィックの流量がどこでどのようになるのかを示して頂きたい。

答) 同様の声は周りの住民から多くあり、我々も課題であると認識している。ただ、JR 常磐線の両側をつなぐことが、東部地域の多くの住民の悲願だった。それが果たされるということの評価したい。その結果、各種問題が発生すると思われるが、しっかり取り組んで参りたい。委員会としても協議して参りたい。

答) 香取神社交差点の渋滞については、何人もの議員が一般質問で取り上げた。スクランブル交差点となっている点も課題と捉えている。災害発生時、向小金地域はマンションが多いので、はしご付消防車が通行できるようにすることも重要と考える。跨線橋利用者や近隣住民の意見を聞きながら安全対策、震動対策についても取り組んで参りたい。

問) 名都借跨線橋のエレベーターを設置するのは、いつ頃になるのか。

答) 現段階では、令和 7 年度の設置予定と聞いている。

答) 歩道橋は現在、工事に支障をきたさぬよう、仮設置となっている。工事が進行したら最後にエレベーターが設置される。エレベーターは、自転車も乗れるものが設置される。

問) 名都借跨線橋の工事について、地下の埋設物が発見されたことによって、7 億 3 千万円の補正予算が組まれた。この補正予算の財源は、どのようになっているのか。また、委員会として現地視察を行ったのか。現跨線橋が何年前に造られたのか不明だが、原図は永久保存のはずで、その図面を基に契約すれば工期の遅れもなく、7 億数千万もの補正を組む必要が無かったのではないか。

答) 図面が無かったとの点は、委員会審査でも取り上げられた。計画変更になったのは都市計画道路が断念となり、名都借跨線橋の拡幅事業に変更された平成 23 年 5 月。直後に、当時の東部地域の 6 人の議員が市長に対し申し入れをした。現地視察については、感染拡大の影

響もあり、視察ではなく写真での説明となった。10 年経過して杭が見つかったということは、あまりにも発見が遅いのではないのかと、委員会の討論で指摘している。

答) 図面が無いゆえに事前に調査が必要となり、杭が発見され工事が追加となった。その当時の図面が有って然りとの意見があったが、執行部からは図面が無いとの答弁であった。

問) 跨線橋が建設された当時は流山町の時代で、公文書の管理もずさんだったのではないか。無いという事で委員会としては是としたのか。

答) その点については真摯に受け止め、改めて市側に確認していく。

問) 名都借跨線橋改良工事の補正予算は、どのように組まれたのか。

答) 補正予算に関して、全議員が把握していなければならないが、所管の委員会は総務委員会であり、総務委員会で補正予算について審議した。財源として、国費がどれ位で市費がどれ位なのかは、今この場では資料が無いので分からない。都市建設委員会では、工事計画の見直しの説明が有り、それに対する質疑を行った。予算をどうするかについて、議論は行われていない。

## 7 参加者から議会への要望

- 1) 名都借跨線橋について、災害時に消防車が通れないことの解消を図るため、早期に完成させて頂きたい。
- 2) コミュニティバスについて、経営収支を重視した場合は、廃線となるものもあるが、公共のバスなので、ある程度予算を投入しても全ての路線を守るという点も議論して頂きたい。そして、市民にも周知して頂きたい。
- 3) 名都借跨線橋に関する補正予算については重要な問題なので、緻密に調べた上で市民に提示して頂きたい。
- 4) 新型コロナウイルスの 3 回目のワクチン接種予約、特に高齢者への支援体制について、各公共施設で接種予約の手助けをできる体制を構築して頂きたい。
- 5) 流山市は人口 20 万人を超えたが、東洋学園大学の校舎を使って、

保健所を建設して頂きたい。

## 8 所感

コロナ禍での開催となり、万全な感染症対策を実施することが求められました。議会事務局の事前のフォローと、全委員で入念な会場設営をしたことにより、来場された方々を無事にお迎えすることができました。意見交換では、東部地域の深刻な課題や、懸念されている事柄など、多くの意見を寄せて頂くことができたと思います。また、司会者の配慮もあり、全来場者からご意見を頂くことができ、有意義な報告会とすることができました。

反省点としては、名都借跨線橋の追加工事の財源について、所管の委員会でなかったとは言え、明確な数字と答えを持ち合わせていなかったことが挙げられます。今後はより万全な準備で臨んで参りたいと思います。(戸辺 滋)

久しぶりの議会報告会でした。いらしてくださった方はいつも熱心に参加してくださっている方、地元自治会関係の方々でした。質問はいずれも地元に着した、切実な課題で、広報の面からも公聴の面からも有意義な報告会だったと思います。地域の課題を忌憚なく、話し合える場は大事だと改めて実感しました。

(楠山 栄子)

参加者が1桁と少なかったのは残念ですが、タクシーで来場された熱心な市民もあり、議会の活動に関心をもち、厳しい批判も含めてご意見をいただいたことは感謝しています。特定の方に発言が集中しないよう仕切りをした司会者もご苦労様でした。

新型コロナウイルス感染症では、行政の報告を代弁する形となり、議会での多様な意見を反映した取り組みや各会派の取り組みなど紹介し意見交換できれば、議会報告としてより適切だったと考えます。

地元課題の名都借陸橋改修工事の追加工事については、現在の陸橋をつくる際の図面などがなく、改修工事の中で明らかになり7億円もの追加工事が必要になったことについて、議会の取り組みが弱いのではないか。7億円の重みをしっかりと受け止めて、文書管理のあり方もふくめ責任の所在を明らかにするべきとのご意見が出されました。追加工事の補正予算審議が総務委員会でおこなわれ所管の都市建設委員会で

十分に把握していなかったことについて、ご指摘のとおりですと回答しましたが、都市建設委員会として議案として提出されなくても、所管部署の重要な課題については、委員会としてフォローしておく必要があると改めて自覚しました。今後に生かしたいと思います。(乾 紳一郎)

活発な意見交換ができて、有意義な議会報告会でした。(中村 彰男)

約1年半ぶりの議会報告会の開催でありました。4会場全て参加いたしました。どの会場も市民から多くの意見や要望が出され、開催して本当に良かったと思えました。今回の開催についての議論がありましたがコロナ禍にあり、混乱の中、市民からの声を聞く「広聴」という大切な議会としての部分を努力できたと感じました。反省点としては、参加者が多くはなかったということです。私も含めて関心を持ってもらえるように努めたいと思えました。(笠原 久恵)

久しぶりの議会報告会でしたが、会場準備等はメンバーが適材適所に動くことができスムーズであったと思います。今回参加された方は10名以下ではありましたが、日頃から考えていらっしゃることを、全員の方がそれぞれの角度から発言され勉強になりました。

会場での質問に関し、特に大切な数字等をお答えすることが出来ず、想定質問や回答の準備が足りなかったことが反省点として挙げられると思えました。(大塚 洋一)

直前まで開催可否の決定を保留としたために、周知期間が短くなった為か、参加者が前回より少ない印象でした。意見交換の中で、市民の方から、議会、市議会議員に対し厳しい意見も出ました。市民からの指摘には真摯に受け止め、市民の期待に応えられるよう対応すべきと考えます。

今後、報告会を継続する場合には、幅広い世代の市民が参加し、議会に対する関心を高めるよう、情報発信を含め更に改善が必要と考えます。(大野 富生)

以上